

世界連邦 Newsletter

2015年 1月28日
第627号



発行所
世界連邦運動協会
World Federalist Movement of Japan

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 3F
電話 (03) 6803-2114 FAX (03) 6803-2117
E-mail: info@wfmjapan.org Twitter : wfmjapan
URL: http://www.wfmjapan.org/
郵便振替 00190-6-29964
1部 100円 (年6回 奇数月1回 28日発行)

海部会長 年頭の挨拶

世界連邦運動協会 会長 海部 俊樹



平成 27 年 (2015 年) の年頭に当たり、みなさまのご多幸をお祈りいたします。

今年は戦後 70 年、そして平成 17 年 (2005 年) の衆議院での「世界連邦実現への道の探究」を盛り込んだ『国連創設及びわが国の終戦・被爆六十周年に当たり更なる国際平和の構築への貢献を誓約する決議』から 10 周年の記念すべき年です。

世界連邦運動 (WFM) は、第二次世界大戦後、核兵器廃絶を目的として世界的に広がった平和運動であり、国連を改革・強化して世界連邦を実現することを目指しています。

昨年 12 月 2 日、日本が中心になって国連総会で呼びかけた核兵器廃絶決議案は、米英仏を含む 170 カ国で採択されました。しかし、日本政府は核兵器禁

止条約の交渉開始を求める決議には賛同しておりません。わたくしどもは、核廃絶日本 NGO 連絡会等を通じて、日本政府が名実ともに核兵器廃絶に取り組むよう働きかけてまいります。

昨今、ヘイトスピーチなどが問題になっています。私たちは信頼醸成によって戦争をさげなければなりません。昨年は武器輸出三原則に代わる新たな政府方針として防衛装備移転三原則が閣議決定されました。日本が死の商人とならないよう市民社会が注視していかなければなりません。

私たちは世界法による世界平和を目指しています。世界連邦運動の主なプロジェクトは国際刑事裁判所 (ICC) の加盟国を増やし、ローマ規程を充実することです。国連が報道した通り、今年 1 月 2 日にパレスチナが国連に提出した加盟申請が認められれば大変画期的であり、昨年のガザ空爆のようなことは ICC で裁かれるようになりますので、イスラエルが今後、慎重になることが期待されます。今年は経済学者ピケティの来日が注目されています。グローバル連帯税である金融取引税や航空券連帯税が日本でも創設されるよう他の NGO・諸団体とともに努力してまいりたいと存じます。

WFM が掲げている目標として国連の改革がありますが、その具体的方策として国連議員総会 (UNPA) の創設があります。より民主的に民意を汲み上げるには、まずは、各国から選出されている国会議員が国連の代表として議論し、やがては世界議会の代表を選出するという仕組みが必要です。日本においても、ひきつづき世界連邦日本国会委員会等と協力して実現に向けて努力して参りたいと存じます。

「第 36 回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者伊勢大会」開催



平成 26 年 12 月 2 日三重県伊勢市の神宮会館において、世界連邦日本宗教委員会（田中恆清会長＝石清水八幡宮宮司）主催で、「第 36 回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者伊勢大会」が開催された。今回のテーマは「平和への原点を求めて－共生きと日本人の心－」であった。本大会に先立ち、内宮を参拝し、神楽殿で御神樂が奉納された。昼食後、神宮会館に場所を移し、大会開会式が開催された。会場には約 850 名が参加した。まず、野下千年世界連邦日本宗教委員会副会長・カトリック長崎大司教区諸宗教委員会委員長のもと、参加者全員で「祈りの言葉」を唱和してから、川端健之世界連邦日本宗教委員会副会長・立正佼成会理事長が開会の辞を述べ、本大会会長である鷹司尚武神宮大宮司と実行委員長である田中恆清会長が挨拶。来賓を代表して穂積秀胤公益財団法人日本宗教連盟理事長と宇都宮憲爾世界連邦推進日本協議会理事長が祝辞を述べた。

その後のプログラムでは、学校法人皇學館理事長・松尾大社名誉宮司佐古一洌氏が「日本の心とまつり」をテーマに基調講演を行なった。佐古氏は心の平穏について、心が暗く汚れておればそこは地獄であり、物質的状况でなく心が決めることなどを論じた。

さらに黒住宗道世界連邦日本宗教委員会副会長・黒住教副教主をコーディネーターとして、河合真如神宮禰宜・神宮司聴文化部長、小峰彌彦真言宗智山派観藏院住職・元大正大学学長、樋口美作世界連邦日本宗教委員会常任顧問・日本ムスリム協会理事、田中恆清世界連邦日本宗教委員会会長・石清水八幡宮宮司が登壇しパネルディスカッションが行われた。

最後に、桶屋良祐・念法眞教教務総長によって「大会宣言文」が採択され、浅田秋彦世界連邦日本宗教委

員会副議長・大本本部長が閉会の挨拶を述べて会は終了した。

大会宣言文

よもの海みなはらからと思ふ世になど波風のたちさわぐらむ

明治天皇が明治 37 年に詠まれた御製であります。

平和への取り組みはいずれの宗教にとっても、最も重要な活動であり、私たち宗教者・信仰者の使命でもあります。しかしながら、世界では、いまだ争いは絶えず、平和に向けての私たちの努力の至らないことを痛感します。

争いの心も、人々の心に宿ります。その一人ひとりの心が平和にならなければ、真の平和は訪れません。

日本人は古来、民族固有の信仰によって山川草木のいたるところに神仏の存在を感じ、自然と共存して生活を営んできました。大自然に畏敬の念をもつとき神仏をまつり、事あるごとにその無限な力のご加護を願い、自然の恩恵に生かされて豊かな生活を営んできました。

しかし、科学技術の革新により、物質的に恵まれた生活が可能となったものの、科学万能の考え方が蔓延り、地球上の資源の枯渇、大気汚染、異常気象などをもたらしていることも否めません。また、近年、多くの自然災害を経験し、私たちは従来の生活態度を根本的に変革することなしに、希望ある未来は訪れないことを改めて認識します。

今、私たちは、長年にわたり慣れ親しんだ、地球上の資源の大量消費、自然破壊をもたらす生活の在り方を改め、自然の中に生かされていることに感謝を込めて、これらの課題に取り組んで参ります。

私たち宗教者・信仰者は、日本の聖地、ここ五十鈴川の畔に集い、第 36 回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者伊勢大会を「平和への原点を求めて－共生き（ともいき）と日本人の心－」と題して開催しました。悠久の古代に遡る儀式である神宮式年遷宮を今日まで連続と引き継ぎ、自然と共に人々と共に和をもって生きてきた心を見つめ、その精神をそれぞれの心に刻み実践してゆくことが、人々の心に平和を宿し、人類の幸福に資することを確信します。

私たちはすべての生きとし生けるものと共に、末永く豊かに生きるために、神仏の御前に祈りご加護を得て、人類一人ひとりの平和を願う心の扉を開き、世界平和の実現に邁進してゆくことを誓います。

平成 26 (2014) 年 12 月 20 日

第 36 回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者伊勢大会 参加者一同

(谷本 真邦)

久司道夫顧問死去



久司 道夫 顧問

当協会の顧問で久司財団会長、イーストウエスト財団会長である久司 道夫（くし みちお）氏が昨年12月28日未明（アメリカ、ボストン現地時間）亡くなった。享年88歳。

1926年、和歌山県生まれ。東京大学法学部卒業。同大学院国際政治学を修了。世界連邦主義者桜沢如一氏、南原繁東学部長らの影響を受け、1949年に渡米。人類の平和のために、バランスのとれたマクロビオティック的健康食をさらに発展させたクシマクロビオティックを確立し、世界的規模で教育普及活動に取り組んだ。

以後アメリカを中心として50年以上に渡り、アベリーヌ偕子夫人（1923-2001年）と共に自然食の普及と教育啓蒙活動に努め、自然食ブームを巻き起こす。

世界中の多くの著名人・有名人、例えばジョンデューバーやジョンレノン、グウェネス・パルトロウやマドンナなどに食事指導をしてきた事でも知られている。

1994年9月、欧米人の健康維持に寄付した功績が高い評価を受け、国連著述家協会優秀賞を受賞。1995年8月、クシマクロビオティックス普及の功を讃え、ロードアイランド州上院議会から表彰される。

1999年、日本人で初めて、米国スミソニアン国立歴史博物館に殿堂入り。クシファミリーコレクション（クシマクロビオティックスコレクション）が永久保存された。

1999年米国国会下院で業績についての顕彰決議がされる。2000年12月、MA州“地球擁護協会”と関連する「ピースアベイ」よりアベリーヌ偕子夫人（2001年7月他界）と共に平和賞を授与される。欧米やアジア、アフリカなど世界各地でセミナー、講演会、著作活動、健康相談を行っていた。

久司先生のマクロビオティック食は平和へも大きく貢献するものです。謹んでご冥福をお祈りします。

（阿久根 武志）

青梅市平和事業 藤原紀香チャリティ平和写真展・講演会



藤原 紀香氏（右）

12月、「青梅市平和事業 藤原紀香チャリティ平和写真展」として、世界連邦運動協会青梅支部と青梅市主催・当協会の後援で、女優の藤原紀香氏の写真展が開催された（12月13-25日）。

この写真展は、平和の尊さや命の大切さを感じ

ていただきたいと企画されたもの。会場では、藤原紀香氏が撮影した、紛争・災害により厳しい環境下で生活している子どもたちの写真約50点が展示された。子どもたちのきらきらした表情、苦難を内に秘めた表情が印象的であった。会場では、「24時間テレビ」で放送された現地ドキュメンタリーを人々は食い入るように観て心打たれていた。

14日には青梅市民会館ホールで同氏の平和講演会が開かれ、当協会主催のポスター作文コンクールで青梅支部において入賞した子どもたちが表彰状を手渡され、講演会の終盤の質疑応答にも加わった。入場料は「Smile Please☆藤原紀香世界子ども基金」に全額寄付され、世界の子どもたちの教育支援に使われる。ドラマ・舞台・司会などで活躍している藤原紀香氏は、2002年、内乱後のアフガニスタンに赴き、戦災についてレポートするとともに、同年12月より、自身が撮影してきた写真を集め、チャリティ写真展を開催。以降、数々の途上国を視察されており、2006年にはNY国連から写真家として要請を受け、独立運動の混乱の最中であった東ティモールに赴いた。2007年からは日本赤十字社の広報特使に就任し、今年で8年目となる。2010年には、自身のNPO法人「Smile Please☆藤原紀香世界こども基金」を設立し、その収益でアフガニスタンやカンボジアに小学校を建設、2014年12月には4校目が完成した。（下記参照）

<http://www.asahi.com/ad/bluetable/>

講演会で印象に残った話：「人にはそれぞれでできることがある。英語を学ぶためのNYのホストファミリーはととてもピースフルな家族だったのに、911

以降、急にアフガニスタンを攻撃するのは当然だと考えていたのが衝撃だった。どうしてもアフガニスタンの子どもたちに直接会って感じたことを伝えたいと思った。アフガニスタンでは学びたくても学べない環境にある子どもたちがたくさんいる。衛生的にきれいな水、文房具が整っていること、学べる学校があること、学校に行かせてもらえること、(きょうだいのお守りで行けない子もいる)。こうしたことをあたりまえに享受できている日本の子どもたちは自分たちが恵まれているということを知ってほしい。とくに女の子はイスラム

の国では教育を受ける必要はないと考えられていて、父親にさからうことは戒められている。」

紀香さんが訪れたことで、ある少女が感化され、「NORIKAのように働きたい」と父親に懇願し、学校へ通うようになったそうだ。父親が少女の熱意によって、村長を説得したのだという。表彰を受けた子どもたちに囲まれたトークでの質問に、紀香さんはまずは身の回りを見渡して手伝えることはないか、思いやりある行動ができるように助言した。

(阿久根 武志)

世界連邦文化教育推進協議会が設立記念イベント



東久邇信彦 会長

昨年12月7日、世界連邦文化教育推進協議会による全国推進大会が京都ホテルオークラで行われた。同団体は、慈受院門跡の故・梶妙寿氏の呼びかけにより設立され、昨年4月に世界連邦推進日本協議会への加盟が承認された。しかし、その後、梶妙寿氏が急逝、設立記念イベントが延期されていた。このたび、同団体は東久邇信彦氏を会長に迎え、設立記念イベントを開催する運びとなったものである。

東久邇信彦氏は、戦後最初の総理大臣で世界連邦建設同盟(現・世界連邦運動協会)2代目会長の東久邇宮稔彦氏のお孫さんである。

第1部は、東久邇信彦会長の挨拶、来賓挨拶に続き、文化教育推進協議会名誉顧問の飯島勲氏(内閣参与)による記念講演「国際社会における日本の役割」が行われた。飯島氏は小泉総理首席秘書官当時に、世界連邦関係者が中心として運営した、イスラエルとパレスチナの子の交流事業を見て非常に感動したことについて触れた。そして、古来より高い水準の文化・教育を有する日本が平和運動を先導していくことの意義を語った。

第2部の懇親会ではジャーナリスト下村満子氏の話に続いて和やかに歓談が行われた。懇親会のお開きの前には梶妙寿氏の生前の活動を紹介する映像が流され、涙ぐむ参加者も多く見られた。

(塩浜 修)

日本大会 10月31日綾部で開催へ

今年の世界連邦日本大会は京都府綾部市での開催が内定しています。同市は、1950(昭和25)年の市制施行直後に日本初の世界連邦都市宣言を行なった自治体であり、世界連邦宣言した自治体でつくる全国協議会の会長・事務局を担当しています。今年が市制施行・世界連邦宣言65周年に当たることから日本大会を誘致・開催することになりました。正式には今春の世界連邦推進日本協議会理事会で決定の運びですが、地元では行政当局や綾部支部などで実行委員会を構成して企画・運営に当たる方針です。

これまでに固まった計画によると、10月31日(土)午後と同市街地郊外にある京都府中丹文化会館(1000人収容)で開催。哲学者・思想家(宗教学・人類学)で明治大学特任教授(野生の科学研究所所長)の中沢新一氏による講演などを予定しています。綾部出身の在野の哲学者、波多野一郎の『イカの哲学』に、中沢氏が平和学の土台を見出し世に問うた縁などで、今回の招聘になったそうです。詳細が決まれば案内がありますので、各支部・各方面から多数ご参加をお願いいたします。

(土田 哲生)

パレスチナ、国際刑事裁判所 (ICC) 加盟に向けて書類提出

パレスチナのマンスール国連大使は1月2日、国際刑事裁判所 (ICC) への加盟に必要な書類を国連に提出した。パレスチナ自治政府のアッバス議長が昨年12月31日、同書類に署名。大使は記者団に、60日ほどで加盟が認められるとの見通しを明らかにしている。パレスチナのICC加盟は、イスラエルの「戦争犯罪」の訴追を求めることで、占領地からの撤退などに向けて圧力をかける狙いがある。昨夏のパレスチナ自治区ガザでの軍事衝突については、すでにICC側に問題提起を求めた

という。ICCはジェノサイド、人道に対する罪、戦争犯罪などを裁く常設の国際法廷である。大使は「非常に重要な一歩だ。イスラエルによって殺害された犠牲者のため、正義の実現を目指す」と話した。

参照：読売新聞ウェブサイト1月3日記事

<http://www.yomiuri.co.jp/world/20150103-0YT1T50125.html>

(阿久根 武志)

草津で世界連邦実現をめざしたチャリティ講演会開催

11月17日、滋賀女性の会の山本幸江さんが主催した「第17回チャリティ講演会-世界連邦実現をめざして-」が、滋賀県草津市のクサツエストピアホテル瑞祥の間にて開催され、350名を超える人々が参加した。出演したのは、NPO法人MAKE THE HEAVENで石巻など被災地の復興活動を行なっている、てんつくマンと盲目の中国笛奏者でテノール歌手の楊雪元さん。

「動けば変わる-今、私にできること-」をテーマに熱く語るてんつくマンに場内は熱気にあふれ、立ち見が出るほどであった。楊雪元さんは情熱的なテノールの歌声とテクニカルな笛の音色で感動的な演奏を披露した。

(山本 幸江)



本部と支部の動き

12月7日 世界連邦文化教育推進協議会設立総会
12月14日 青梅市民会館ホール 藤原紀香平和講演会
12月20日 世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者伊勢大会 神宮会館 (世界連邦日本宗教委員会主催)
1月8日 豊中支部 新年会 ホテルアイボリー
1月18日ピースビレッジ第28回「市民の力を合わせ社会を変える、コミュニティ・オーガナイズング」 日比谷図書文化館
1月24日 京都支部新年勉強会 円龍院住職 宮本祖豊氏 テーマ「恩返し」

1月25日、世界連邦・北海道の教職経験会員の集い 講話「みんな仲よく」(荻野忠則)
2月11日 ピースビレッジ第29回「変容の時代を生きる」 講師：木戸 寛孝常務理事
2月13日-15日 世界連邦推進全国小中学生ポスター作文コンクール優秀作品展 都庁第一本庁舎南展望室 45F
2月14日 同コンクール表彰式 新宿 NS ビル 3H 会議室
2月27日 第三回執行理事会 衆議院第二議員会館

山口末子さんを偲んで

高知支部 松岡 由紀彦



山口末子さん

「松岡さん、若い人を世界連邦に入れてよ。」と、22年前の平成5年に初めてお会いして以来、私を見るたびに仰っていた山口末子さんが1月2日に満100歳の長寿を全うされました。謹んでご冥福をお祈りいたしま

す。

山口さんは常にお着物を召されていました。細身の華奢なお体に草履履きのお姿は、全国の世界連邦運動家の間で知らぬ人がいない程でした。世界大会だけでなく観光などで世界中を回られ、外国の方から「一緒に写真を」とせがまれたと聞いています。「老後」に行く予定だった近場の「台湾」のみを残され、とうとう彼岸に旅立たれました。台湾旅行をご一緒できなかったのが残念です。

山口さんを半世紀もの間、世界連邦運動に導かれたのは、夫の小笠原論文氏でした。小笠原氏は「将

来夫婦別姓の時代が来る！」と男女の「独立平等」を実践された先覚者であり、氏の世界連邦運動論は同じく「独立平等」で整然と貫かれており、指導を受けた青年の昭和62年7回忌追悼文には「20世紀の土佐が生んだ最高の哲学者だ」とあります。女性の細腕での繁盛ぶりは地元でも有名で、「万年筆の白亜堂の山口さん」で通っていました。5日の葬儀では、高知県一のアーケード街「帯屋町」のいくつもの組合から寄せられた花輪と共に、我が世界連邦運動協会海部俊樹会長の花輪が山口さんへの深い感謝の気持ちを告げていました。

私の20年の世界連邦運動の歩みは、山口さん抜きには語れません。四国ブロック大会や日本大会への同行、湯川スミ会長を囲んでの懇親会、高知市郊外に夫・論文氏が開墾された「自興山」での竹の子会等など、楽しい思い出ばかりです。「山口さん、あなたとの約束どおり、若い同士を発掘し、学生たちの世界連邦教育にも励んでいますよ。昨年四国ブロック大会では同窓の馬路村村長の上治堂司氏に講演していただきましたよ。これからも高知ならではの貢献をお約束いたしますので、どうかご安心ください。ありがとうございました。」

第43回世界連邦推進全国小中学生ポスター・作文コンクール優秀作品展のご案内

【日時】2015年2月13日(金)～2月15日(日) 午前9時30分～午後5時

初日は12時から。最終日は午後3時まで展示。 ※土日は午前10時から午後5時。

【展示作品】ポスター入選作品：文部科学大臣賞 特賞 湯川スミ賞 入賞 佳作
文：文部科学大臣賞 特賞 湯川スミ賞

【場所】東京都庁第一本庁舎45階南展望室（東京都西新宿2-8-1）

「JR新宿駅」（西口から徒歩約10分）、都営地下鉄大江戸線「都庁前駅」

表彰式 2015年2月14日(土) 午後2時

新宿NSビル 3F 3H 会議室（東京都新宿区西新宿2-4-1）

編集後記 ☆高知の山口末子さんが100歳で亡くなりました。世界連邦運動に尽力していただいた方です。ご冥福をお祈りします。(阿久根) ☆拉致問題・パレスチナ問題などにICCを活用する動きが見られる。紛争は武力でなく、法で解決すべきだ。(塩浜) ☆軍隊は手段を選ばない傾向がある。軍隊は限りなく民主的警察組織に近づくべきだ。(平口) ☆山口末子さん、100歳の高齢とはいえ、支部の柱を失ったに等しい。若くはないがこれから新しい歴史をつくって先駆者たちに報いたい。合掌(伴)

編集委員会/委員長：伴武澄、副委員長：阿久根武志・塩浜修・平口哲夫、委員：荻野忠則・土田哲生